

平成30年度 学校自己評価 (年度末)

基本方針 安心安全で生徒職員ともに元気な学校、生徒の長所を引き出し社会から信頼される学校づくりを目指す				
重点目標		具体的目標		
1 基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。	(1) 生活指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②ルールへの遵守、マナーの向上 ③身だしなみ指導の徹底 ④元気なあいさつ・返事			
2 基礎基本の学力定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組む。	(2) 学習指導 ①授業規律の徹底 ②授業力の向上、授業改善(主体的・対話的で深い学び) ③家庭学習の定着			
3 キャリア教育の一層の充実を図るとともに、大学入試改革への対応を図る。	(3) 進路指導 ①キャリア教育の推進 ②就職指導の充実 ③進学指導の充実と大学入試改革の研究			
4 部活動や特別活動などへの積極的な参加を促すとともに、外部人材の活用や地域貢献を図り、円滑な人間関係や素直な心と感謝の気持ちを育む。	(4) 部活動及び特別活動 ①部活動の充実 ②学校行事の充実 ③生徒会活動、委員会活動の充実 (5) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害の防止 ①業務の適正化 ②確実・適切なメンタルヘルスの保持 ③年次休暇の計画的な取得を促進する環境整備			
5 教職員間のコミュニケーションや連携を図りながら多忙化を解消する。	(6) その他 ①環境美化 ②ボランティア活動の推進 ③積極的な情報発信 ④創立80周年行事に向けての準備(平成31年11月予定)			
担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
糸谷 務	①PTA活動に対する保護者の関心を高める。	PTA活動の様子を保護者に向けて積極的に発信する。	B	体験型研修会(H29=16→H30=21)や、あいさつ週間(H29=30→H30=31)では昨年度増加した参加者数を維持できたことから、PTA役員の関心は変わらず高く保てたととらえる。また、今年度はPTA総会時の授業参観者数が回復し(H28=79→H29=54→H30=75)、黒潮祭の参加者数も増加(H29=124→H30=150)した。課題であった一般保護者の関心がきずなネットの活用等により、少しではあるが高められたと考える。保護者アンケートの回答率も(H28=89.8→H29=82.8%→H30=87.7%)回復してはいるが、90%以上の数字を目指したい。目標としていた延べ参加人数277を上回る284人に参加していただけた。
	②保護者や地域に向けて積極的な情報発信を行う。	WEBページの充実を図る。	A	8月にHPをリニューアルし、スマホからも見られるようにした。その後もタイムリーな更新ができています。アンケートを元に、内容をさらに充実させていくことが課題である。

教務	①落ち着いた学習環境を作る。	授業参観や研究授業を通して、教員の授業力の向上を図るとともに、授業規律の確保に努め、生徒が落ち着いて授業に向かえる環境を作る。	B	6月と11月に教員同士での授業参観を実施し、教科の垣根を越えて指導法や生徒対応の共有を行った。授業での生徒の様子を教科担当が記録し、授業規律に反する行動がある場合には指導を行っている。また、教員の巡回などで、学校全体で授業規律の確保や授業の改善に取り組んでいる。
	②基礎基本の定着を図る。	生徒の学習実態を把握し、わかる授業を研究する。	B	7月と12月に、全生徒を対象に学習や授業アンケートを実施した。ばらつきは見られるが、おおむね授業はわかりやすく展開され、生徒は満足しているという結果であった。ただ、授業の進め方や進度について否定的な意見もあったので、更に分かりやすい授業へと改善する余地がある。生徒の家庭学習時間が少ないので、復習のための宿題を与えるなど、授業内容の定着を図ることが課題である。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻を減少させる。	B	昨年比で欠席・遅刻とも大きく減少傾向にある。(H29 欠席指数 6.0 遅刻指数 2.2、H30 12月末時点での欠席指数 3.4 遅刻指数 1.2) 継続的な生活態度を含めたさらなる改善をいかに図っていくかが課題である。
		皆勤者の増加を図る。	B	皆勤率は1年 32.9%、2年 24.7%、3年 25.2%で目標は1/3である。
	② ルールの遵守、マナー向上	ルール・マナーを遵守し、TPO に応じた行動ができるよう促す。	B	ルールやマナーを守れない一部の生徒がいるが、その数は減ってきている。TPO に応じての前向きな発言や行動を主体的にできているわけではない。
		③ 学校行事、部活動の活性化と充実	生徒が充実感・達成感を得られる工夫をする。	A
	部活動への参加率向上を目指し、やめさせない工夫をする。		B	活動場所の整備と清掃、部室の整頓に力を入れている状況が各部活動に見られてきた。体育館部活動も徐々に充実してきたが、参加率の向上が課題である。
	④ いじめのない安心安全な学校生活	「学校いじめ防止基本方針」に基づいてスクールカウンセラーと連携し、いじめ事例に組織的に対応する。	B	いじめ問題に対しては、状況の把握と当事者双方の言い分や考え方の理解、互いに納得のできる対応が学年中心にできた。精神的に不安定な生徒への対応では、相談係やスクールカウンセラーのアドバイスを生かすことができた。SNS 上のトラブルから生じるいじめ問題への対応が課題となる。
			B	自己を優先した言動が3年生を中心に見られた。周囲への悪影響を及ぼすことを自覚させて、改善を促す必要がある。

進路指導	①進学指導・就職指導を充実させる。	進学・就職両面において、教員間の情報の共有化をしっかりと図り、適切な指導ができるようにする。	A	進学指導として、個々の進路希望や学力に応じて志望校を複数検討し、受験順位を決定した。また、補習と模擬試験を連携させ、基礎学力の向上を図った。 就職指導として、初めて求人票をいただいた事業所を含めて、教員間で事業所に関する情報の共有を図り、早い時期から生徒の希望と受験先のマッチングを意識した指導を行った。
	②低学年から、基礎的な常識をしっかりと身につけさせ、進路意識を高める。	進路行事を積極的に活用する。	A	インターンシップ、大学や企業の見学などを通じて、低学年から進路意識を持たせるようにした。特にインターンシップについては、充実した体験となるように、事前に、挨拶やマナー、時間厳守などの大切さを重点的に指導し、参加生徒（1年38名、2年36名）はそれぞれの事業所（21箇所）で概ね良い評価をいただいた。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
保健厚生	①ボランティア活動の継続と充実	特別養護老人ホーム訪問ボランティアと、清掃ボランティアについての活動を継続する。	A	参加人数は、大地の丘ボランティアは延べ260名、地域とあゆむボランティアは延べ127名で、参加率も非常に高かった。地域とあゆむボランティアの最終回は、普段の規模を拡大し、河和駅周辺の清掃活動を行い、多くの生徒が参加した。新聞にも取り上げていただき、地域の方にも知っていただく機会となった。来年度も充実した活動となるよう、指導を継続していきたい。
	②生徒委員会活動の充実	美化委員会の活動で生活環境に対する意識の向上を図る。	B	花壇の整備では、草取りや苗植えの活動を前向きに取り組ませることができた。しかし、水やり当番が定着しない状況があったので、積極的に取り組めるよう改善していく。 清掃道具点検はできなかった。クラスの生徒数から適正な清掃道具を配置し、充実した清掃活動を課題としたい。
		保健委員会の活動で自らの身体や、健康情報に関心をもたせるように工夫する。	C	生徒を集めての保健委員会は実施できなかったが、このあとの学校保健委員会に向けて、内容を検討し、生徒に有意義な学校保健委員会を実施したい。本校の保健委員会として、生徒主体で何に取り組めるかを来年度の課題としたい。
③相談活動の充実	スクールカウンセラーと連携し、相談活動を行う。	A	1年生を中心に、カウンセリングを勧め、スムーズな相談活動が行えた。また相談記録の作成により、教員間での情報共有ができた。	

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
1 年	①規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立	自分を見つめ自分を理解して自己の見直しを図る。	A	落ち着いて話を聞けるようになり、行動につながるようになった。皆勤者は34%であり、目標の30%を達成できた。遅刻、早退はほとんどなく、学校に足の着いた生活ができている。来年度も継続して働きかけをする。
		ルール・マナーをしっかり守る。	B	授業規律違反については、かなり改善されるなど、ルールを守ることに 대해서는 大多数の生徒ができている。しかし、マナーの面においては不十分なことが多く、他者への配慮が欠ける生徒がまだまだ多い。マナー面の改善を意識して働きかけをする。
	②学習習慣の充実	提出物・課題の提出期限を守る。	A	課題などの提出期限を守れるようになった。ルール、マナーと同様、期限を守ることが自分自身の評価につながることを意識させ、社会に出る上で必要最低限であることを理解させて行動させる。
		基本的学習習慣をつくる。	B	大多数の生徒が授業に落ち着いて取り組んでいる。欠点者の数も大きく減少した。ただし、家庭での学習状況はまだ不十分であり、定期考査の成績につながっていない生徒も多い。家庭でもしっかりとした習慣をつけられるよう、課題の出し方などを工夫していく。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
2 年	①周囲から信頼される生徒の育成	ルールとマナーをしっかり守る意識を高める。	B	注意を受けたことに対して、素直に行動をただすことができる生徒が増えてきた。しかし、まだ人を選んで行動する生徒がいることも事実である。一人一人が社会で通用する人間になるよう、来年度は進路と絡めて更にルール、マナーを通知、徹底して声かけを工夫していく。
		時間や期限を確実に守る習慣を作る。	C	皆勤率が28%となり目標の30%を下回った。学校の中核として1年生の手本となってもらいたかったが中だるみを招いてしまった。これからの修学旅行などを活用して、また、最高学年になる準備をするためにも安易な欠席、遅刻をしないよう働きかけていく。
	②コミュニケーション能力の育成	「聞く姿勢」を確立する。	B	全体での緊張感を持った場では多くの生徒が積極的な聞く姿勢を取れるようになってきた。逆に、授業では上記で述べたように教師を選んで行動する生徒がいるため姿勢も崩れている。どの場面でも徹底していくことが必要のため、意識作りを引き続きさせていき、100%の状態を目指す。

		コミュニケーションの第一歩である挨拶や返事を大切にさせる。	B	教師から挨拶を積極的にすることでお手本を見せてきた。多くの生徒が挨拶をできるようになったが、声が小さいなどの課題も多い。
3 年	①進路目標の実現	基礎基本を大切にし、基礎学力の向上を図る。	B	進路を意識し、積極的に授業に取り組む姿勢が多くの生徒に見られた。自主学習を促し、授業以外でも学習に取り組む生徒もいた。帰りのSTで10分間のプリント学習を実施し、生徒の取組状況も良かった。進路決定後もメリハリを意識させ、授業に集中するよう指導してきた。
		就職希望者に対し、就職意識を高めさせ、就職指導を充実させる。	B	進路決定に際して、学年会を通して生徒の志望の共有を何度も繰り返した。その結果多くの生徒が前向きに進路決定できた。 夏休みに進路対策講座を生徒のニーズになるべく合うように工夫して開講し、生徒は非常に前向きに参加した。
	②信頼される社会人として必要な能力や習慣の育成	皆勤率の向上を図る。	B	学年皆勤者は25名であった。多くの生徒が、社会人となることを意識し行動できたが、ごく一部の生徒が欠席を繰り返してしまう状況をつくってしまった。3カ年皆勤者数については例年以下の数となってしまったが、精勤者数は例年より大幅増となった。
		身だしなみルールの徹底を図る。	B	頭髪や制服の手入れにおいて、意識を向けられる生徒が大幅に増えた。一方で着こなしにおいて乱れもあり、その都度、声かけ指導を行ってきた。
		コミュニケーション能力の育成を図る。	B	「聞く」場面において、昨年と比較し、できるようになった。「話す」場面において、敬語を使えるように指導をしてきたが、生徒への定着は不十分であった。進路指導のなかで自分の思いを伝えるという部分についてはしっかりと指導できた。